

第2回 わかりやすい道路案内標識に関する検討会

1. 日 時：平成16年7月16日（金）19：00～21：00

2. 場 所：虎ノ門パストラル 新館5階 ローレル

3. 出席者：＜メンバー＞

家田委員〔座長〕、赤瀬委員、大宅委員、国吉委員、久保田委員、清水委員、千委員、廻委員
＜オブザーバー＞

・国土交通省（以下、「国交省」と表記）

宮田道路局企画課長、大西国土技術政策総合研究所道路研究部長、
若林総合政策局観光地域振興課長

・警察庁

宮内交通局交通規制課課長補佐（倉田課長 代理）

・日本道路公団

中村技術部調査役（角谷技術部長 代理）、田中高速道路部長

・首都高速道路公団

藤井業務部交通管制室長

4. 議 事：

（1）開会

（2）第1回検討会のレビュー（省略）

（3）各委員の道路案内標識に関する意見発表

赤瀬委員：サイン・メディアを用いた公共空間における情報提供の考え方

- ・サインシステムでは、案内標識は、指示（方向の案内）と同定（場所の案内）を基本的な骨組みとしている。
- ・情報は、必ず3属性を持つ。1点目は、情報の中身である「コンテンツ」「コード」、2点目として表現様式としての「モード」「スタイル」、3点目として、空間上の位置である「ポジション」と場所の「ロケーション」となる。この3要素のどれかが欠けると、情報が伝わらないことになる。
- ・車両系の道路標識では、「同定」が不足している。
- ・車両系では、連続性という観点から目標地の選定に課題が残されている。
- ・歩行者系では、「街中のランドマーク」を案内に含めたシステムを検討する時期にきている。

大宅委員：HIGHWAY EXPRESS からのエッセイ

- ・利用者側の立場にたって、少ない情報量で利用者にわかりやすく案内することが必要である。十分な情報が足りないところに、余分な情報を加えていってしまい、余計わかりにくい案内となっているのが現状である。
- ・標識の仕組みが全くわからない人に、標識で全てを案内することは不可能であるため、標識に関する必要最小限の情報を一般的にPRしていくことが必要である。

国吉委員：横浜市における歩行者系案内サイン整備の取組事例

- ・横浜を歩いてもらえるようなシンボルとなり得るサインづくりを目指している。
- ・観光対象施設の選定は要望が多く課題である。
- ・案内サインの整備は道路部局のみでおこなっているのではなく、観光部局等との連携を図ることで市内の主要商業施設の案内も可能としている。施設本体は道路局で製作・設置し、板面情報を観光部局で製作・更新する。（毎年刷り変えて、観光客に必要な情報に更新している。）
- ・歩行者案内標識は原則、矢羽根型標識とし、文字の大きさ、フォントを規定して、カラーは地域ごとに統一したものとしている。
- ・矢羽根型は歩行者系では最もわかりやすい案内方式であるが、幅員の狭い所では設置しにくい等の欠点はある。
- ・できるだけ、統一的なピクトグラムの採用を図っている。
- ・地図には、凡例を4ヶ国語で表示している。
- ・通り名、坂の名前などの愛称を、昔使われていた名称を復活させて、個性づくりにつながっている。

久保田委員：標識雑感

- ・海外で設置事例のあるコミュニティ・ゾーンに関する標識（「Zone30」など）は規制標識であるが、運転者および歩行者に対し、「そこが歩行者優先の特殊な地域であること」を案内する機能も果たしている。
- ・国内においても、バリアフリー・ゾーン（特殊な地区）の入口を示す標識、歩行者のたまり空間となるべく情報スタンドとしての機能を果たす標識を検討、設置していくことが望ましい。

清水委員：他メディアとの連携のあり方

- ・プライベート情報はカーナビ等のメディアで提供することとして、道路標識では必要最小限のパブリック情報のみを提供していくべきである。
- ・自動車のように瞬間で判断するような標識に対して、多言語を表示することは避けるべきである。
- ・案内標識に表示する地名について、現在地からの遠近や、重要度により表示する順番や文字高等を工夫していくことが考えられる。
- ・同じ街道名で途中から路線番号が変わる場合があるが、道路番号の付番の変更も一考である。
- ・交差点名標識は漢字で名前を表示したほうがよい。主要交差点への設置の徹底と、地図、カーナビとの連携が大切である。
- ・交差点名は、交差点に入ってからわかって遅いため、手前で案内することが必要である。
- ・キロポストについては確実にカーナビと連携を図っていく必要がある。
- ・ユーザーフレンドリーなデータベースの構築と共有化が重要である。

千委員：外国人からみる案内標識について — 「観光立国」からの視点

- ・非英語圏の外国人観光客向けの観光案内図や地図は、単語が難しすぎる等内容が不十分であり、利用者への配慮が足りない。
- ・表示の連続性が欠けていることがある。誰を対象にどのくらいの内容を表示すればよいかの検討が必要である。

- ・外国人観光客は主に北東アジア（漢字圏）からの来訪者が 70%と多いが、自動車標識においては、漢字、ローマ字、番号およびピクトグラムのみで、十分案内が可能であるとする。
- ・施設等においては、案内標識で全てを説明しようとするのではなく、配付資料（リーフレット）などとのセットで情報提供する取り組みが必要である。

廻委員：観光客と観光案内標識・欧米では道路が観光と密接に結びついている（フランスのミシュラン社の例）が、日本では鉄道を中心に観光が発達した経緯があり、道路と観光はうまくいっていない側面がある。

- ・初めて訪れる観光客は、出発前から行き先を決めているので、標識を見て行き先を考えることはない。また、観光客は、地図やガイドブック、携帯の i モードやカーナビ等を持っているため、全てを標識に頼る訳ではない。観光客のニーズは、ちゃんと観光地に着くことと、目的地だとわかる標識があることである。
- ・外国人にとって標識が分からないのは、標識に外国語表記がないからではなく、法則性が無いからである。
- ・観光客が必要としているのは、多量な情報ではなくシステム化された情報である。現状は、総合性、連続性、一貫性が欠如しており、系統だっていないためわかりにくくなっている。
- ・道路標識の基本情報と観光 PR 情報を混在させない。観光情報は標識でなく別のメディアで行うべき。
- ・観光地を案内する標識の問題は、国道や県道のどこで曲がって行くかが、視認性が低くわかりにくいことである。
- ・歩行者は、標識より地図や携帯を頼りに歩く。重要なのは、自分の場所がわかるということである。
- ・道路案内標識では多言語表記をおこなうよりは、ローマ字で日本中をある程度バイリンガルにして、それに法則性を持たせるべきである。

家田座長：道路標識マネジメントのあり方について

- ・標識は、コミュニケーション・デバイスであるため、ユーザーからの意見を取り込む「マネジメント型の標識計画・管理」が必要である。
- ・標識の見直しや変更は、一度に完璧を目指すのではなく、顧客志向で漸進主義の I S O 型マネジメントをおこなっていく必要がある。
- ・現場の総合マネジメントの一環として標識も考えていく必要がある。ユーザーと協働し、体系だて、継続的、具体的、総合的にこなしていく必要がある。

（４）意見交換

- ・東京大学キャンパス内のサイン計画をおこなったが、中国語、ハングル文字を表記せず、英語と日本語のみとした。ある程度の割り切りが必要である。
- ・中国語、韓国語、ロシア語等の表記はホスピタリティーを表すという意味以上のものはない。
- ・すべてをローマ字で表記するとわかりにくくなる。
- ・案内標識で、「〇〇通り」は「〇〇 dori」と表記している。「〇〇street」ではないのか。
- ・いろいろな意見を挙げていただいているが、基本的な方向性は同じである。ユーザーのニーズは明らかなのではないか。

- ・自分が「今ここにいる」ということを道路上でどのように担保していくべきか。鉄道では比較的簡単であるが、道路上では非常に難しい。国道以外ではキロポストを設置することは難しいが、設置しているキロポストは非常に便利であると思う。一般にPRしていくべきである。
- ・標識を管理するシステムやデータベースの構築が必要である。
- ・全ての通りに、名前をつけることは可能なのか。
- ・車の通れる道の全てにつけることは不可能である。ただし、都市間を結ぶような幹線道路につけることであれば可能であると思われる。
- ・通り名は自然発生的につけられてきたものである。取ってつけたような名称では社会に浸透しにくい。現状の日本にふさわしいシステムをどのように構築していくかが重要である。
- ・電柱には住所表示があるが、都心では自分の位置を特定することは難しい。
- ・日本ではそもそも住所表示が欧米とは異なり複雑である。
- ・幹線道路のみを対象にするのではなく、住区内についても議論していくべきである。
- ・住区内の案内についても、ゾーンの意味を持たせる標識があってもよい。
- ・通り名はあった方が便利であるが、全て付けることが無理であれば信号機に設置されている地名を有効に活用していくことで、通り名の役割を果たすことができると考える。

(5) その他

- ・各委員の方から挙げられた課題の方向性は同じ傾向がある。次回の検討会では今回のご議論の結果を踏まえ、具体的に取り組んでいけるものは何か、短期的な取り組みであるのか長期的であるのかの切り分け等、メリハリをつけた方向性を提示する予定である。
- ・第3回検討会は、8月19日（木）14～16時に開催する。